共産主義者同盟(戦旗派)

☆帝国主義国、後進国、「労働者国家」 三ブロック階級闘争を 世界プロ独-世界共産主義の勝利へノ

10月23日 第280号 第280号 標果発行人 臨島



旗社

10月31日

11月1日

清水谷公園 破防法弾圧体制と闘う講演

集会 明大本校552教室 1 時

帝国

自衛隊パレード粉砕闘争

沖縄全島ゼネスト 11月10日



へ,四谷変差点。

第1衝突現場 至信濃的

炎のごとく、道路を飽きつぐし、 **
られる火炎ビンは、まさに終りののののののでは、 いても一個小隊を実験すしめたの

「皮帯」な機動除機減機に触発され、機動「な機列を振襲している各敗線と正規」この「皮帯脱級行動隊」の機関的「な関係としてはまでは、別な

等を贈う新たな「暴力」の 階級闘争の概をうち破り、 の地平を更に拡大し、非公銘蝦事 三田塚決敗での「機動除魔滅」

「恒州的武装闘争の新地学を獲得せよくこれが・ 微値して行なわれていったのは背虫さながらに、突撃部隊の反撃は

非公然の割居的展開」をもっ

社共の面前で火焔ビン炸裂

ロ独閣派の創出を目指すわれわれ=蜂組・プロ独派の双隅によって

階級闘争は、前郡の三ス

総行動隊」の戦闘の前に端々述げけらるなく、この果敢な「反帝戦」での場合は、この果敢な「反帝戦」でいた機動隊の地さなど、ひとか

[七二年沖縄双張粉碎、双張協

| 終ー赤ヘル坂軍の周囲を圧成している。

、 当動族の壁と方々で激突し を寄せつけず、強固なスクラ を寄せつけず、強固なスクラ ので、見帯 戦級―赤へル

「反帝戦線行動隊」四谷の交差点で機動隊を粉砕

"(1)"

具体化する ものとしてあるの で

他用案」「助帝」法案改正案」等 国金」は、沖縄双漢格定的袖を眼

レタリア国際主義の権を高々と掲

つにして集会は、

 $10 \cdot 1$

国際主義の眞髓を提起繁 七百の労学市民令場をうめ尽す

その歴史的な難いに他なら

あること は紛れ もない。「沖縄 共産主義委同盟(稅施派)の掌

争に毛のはえたものでしかない を叫びたてながら、カンパニア腕

「反帝戦級行動隊」の戦士建力のない社共のデモの目前で

そのような情勢の中、

帝の勤務と混乱はその概に達し、

沖繩「返還」策動を糾彈

戦

た 「本土」のプロレタリア人民の勝う沖縄人民とそれと聞く連帯し

り切りの適の、徹底的幾圧体制を

終りな含願いを準備せよノ沖縄茲一に完全にまいほつした販成左翼を

△祖国>への幻想を断ち切り

国会での批准の強行及び、

帯の総行及び、議会内 | 国産帰を実践する時が目前に辿り | 気じみた検閲等とやつさばやに弾机会を目ろむ日帯の今 | 民の多年の速顫であった消機の観 | 峻巻鞭の廃止、地下鉄入口での狂 し、明るく豊かで、平和た沖縄県 の魔役」と一九日の佐熊の発達に ロも厚く阿滑な 復帰 を実現

|通常衝視の他二四名の特別警官・| 接線階から、爆行を曝らし、「全一叫び、沖縄过渡を適しての沖縄の|

郷の日本への総統的同化を不可拠的に伴う社会的 即を八月一七日にすませた帝国主義すでに沖縄支援格定の日米同時間 三統合の過程は、帝国主義日米の帝国主義 にも 日米共同河明略級の優勝は、沖 天は思惑をこめて "沖縄 | 事態は七三年記憶をめぐって象徴的に進行して

日本が沖縄を扱くことはできないの。 対外膨脹のため抑縮を併合しようとするものであって、

至いのだら

の被し、空を衝生への。う

「絕図」を生み落すものなのか。 きるのか。それとも激 動は、沖棚の 断らたなる

スリカ帝国主義の終事支配との対決以外! のである。沖糲人民の独闘な団結とアジ

我々の沖縄何飲の道は日本一大和への反逆とア

全国で政治集会克ち取る

10・21 首都総結集をひかえ

の低級処分の激動の渦中で、わが沖縄はその激動・空機備せよ

神縄は、今、佐みの苦しみの見中にある。巻三一がれ。「祖国」への幻想を断ら切り終りなき趣い

年沖縄支漢は、日本帝国 主義の は自らを沖縄輸後史の夢標として発現しようとし 結をつけるものである。

一く一連の沖髄環地での大学的実力闘争の展開は

切りを許さず、

・日韓の批准国会乗

の質でもって聞い抜き、更に浜松まさに恒成闘争=非公然領事闘争

一六日、日比谷野舎において

変遷過至批准四上了」「七

伝詠は、結集した総での基命的労一 帯医神郷派兵国上」の聞い意志 に於る示ヘルのケルン螺旋をも断

強いられた『苦が世』の異の際史から真

な金牌に」の開

て復帰前機派をも構みとみつつ において 「沖棚夜還」を「国民の

に日本が沖縄の命選を決定することができる 史にピリ

沖縄資年問盟仮連絡先

TEL 二九四一六二二〇 連合報道社気付

は美雄四分素をこうむ。在日本業本主義の指定と、もにやこうでいの際代表的で、中央観光では、日本の大学の方式とい義権、古じて、それについたので、他は東上の政策を持て、上側に向けた何がよりました。 かいまかった かけ 一般にある の語の思想がある さったり 他説を一切のは意味が 美国一化ソン・七十年代、神殿で、古田寺画像としての古本、日のの際の対策にない難し、観光の対象にある。 かいまかった 一般にある の語の意思がある さったりでしたりに、例のの概念が代く、日本のの情報がある。 さいまかった 一般にものではだく、「他として経れ、かいというのと して含た復帰運動の主体と、ど もはや、かつての幻想を追い求める心情的、他律 X ※売という今アジア人民の共和の敵 郷人民の対決している意が自米帝国 敷がこ を対している。 を対している。 を対している。 全ての沖縄人は閉糖して沖縄せよく 沖繩青年同盟行動隊 |九七|年|〇月|九日

が沖縄が帝国主義のアジア優勝収基 々の任務は煮大であり、かつ困難で を翻い抜き、【一月沖獲深度送 10.18 【博多安局】全 九州 派兵阻止に更に進撃

電線に最終に要素の革命機、液に関うなにする。関係に、単年 これらの全っの傾向を連載に振しているの間の原総関等。 かいていた。大学としているの間の原総関等。 かいていた。大学としてのを国の原総関等。 いいていた。大学としてのを国の原総関等。

を報告する。

は、当日の宮前の整備体制の中に

我が赤へル側団の浜松の地

10.17 【名古屋支局】 全国の 同志議 名古屋

翌日の基地闘争と連続して

問行く、1○月1六日、我々は反」める境内「風際情勢下、我々自身を終失、とりわけ1○・二二間季に「な前海を終え、淡敷し、動構を突

う反革命の牙をむきだしば 武装自衝淡異数百名で固める

ち放っていった。回題中央より伊 | 選を購して、1○・1:1機勤隊職 告触緩變如政治集会を圧倒的に勝 の更なる飛網と日本階級開発の命

が聞く意宏概一された。

由をつけて目和っていった高継数 ることなく、当日の関係を貧叛し

施費!

|氏・市民務署!そして厳重講院者|

今国の革命的労働者・営生・襲

中階級腕等の革命的耐差が開始さ 定議者的第三次プン 選去アンドの歴史にとって

が同盟と反斉戦線のヘゲモニれたことを兼告したい。それ sa、 微調關係の活命的推進E 〇一大型酸ロとしてある今秋刷一人の運動・型鉄の両断に減る着突、踏え、わかり荷筒線度だり東山銀線「冰膜季を変素が長度にに向けて、一七〇年代本務部率公然頻事勝等 一 月號医グラ拳との分談に除の表 翌一七日、こうした家ぶ絵一は一を明日に、我々は淡公室療米場際としている。 二一機動隊 機械に向けて願い名古殿地区反任務派より、一〇 器ノ敝痕読書解否ノ *たとの簡の離いの若干の根 | 整洋 同志を迎え広節な大楽の結集 | 激戦を中央総約域で関い抜くとと

国会をなにがなんでも独行療法を、同解放派がそれなりの影響力をも 湖の殷閼性に茶帖した権力は、↑ | 運動の寄生] といった形で燃約し しかし今回の闘う沖縄人民の決しは彼らが、闘いの全てを「自治会 英批准 要機能において九州では、 救無選絡会議の終成として物質化

ンでもって機場を表生の

(おかたして)来ている。だが油鋼金」その経済主要、人民般線航線によって新する「本土」人民決慰を圧殺しる。すでに載共同基マル、中敷は標繁をもって、油糖人民とされた「願いを成功機に實敷してるのであ 肝の輸化を行ない真に被防法体制一つつ薬命的地区共變和出に向けた とする自治会路線に対して、 10.20百余名が10 21にむけ起

の問窓を結集して一〇・二 同け、明大和聚において百沓余名 1〇・二一「機動眩殲滅」へ

|高板 | 機後の順後まで闘い抜くことを微 まうな内実をもった難いとして、 我々は、 1〇・二一腕条を次の 称納としてあり、

| 現代帝國主教の共間の反抗命を もっての統一的世界市場の再構、 代過渡例世界における構造的窓職

※プ わが高校母報養芸製会製は い。 ダブルジェック)のもたらした領 体側の崩滅の中で、その大きた枠へ間の贈り高整に接着! 兄弟 戻ったことを主・報告してあるた。国際国内体系を未着 Cニクソン・ 経経政権とは、下MF・ヴムTT 組みを一時的に取りはらつこ とは後継国民族解放闘争、

全国高叛洪闘総決起集会 よる統一的世界市場の防衛・英鶴 体制の崩壊の中で、その大きな枠 であり、又一方における中国訪問 労働

まさに、プロレタリア国際主義と れは更にその無動化を世界プロ独治経済の流動化に対して、われわ う米帯の機略

樹立へ向けた「本土」「沖縄を費」まで敷い娘く決意を再後に意志」 ック」「中国」「沖縄」という取「機動隊殲滅・佐藤(帝国帝の興任がかえている「ドルショ」われわれば一〇・二一を友 でである。 実的機関以外ないことを選択し、 であった。 開始している 七〇年代階級闘争を地方闘争とし

「排機関会」とも含うべき素大・止解等から、米印自所は抽種表点(膜が激しくぶつかきます) によって切り腕かれるのであり、 そのような博園主義者の攻撃に | 後全



3人民に対して、徹底した機圧を 夏に今回の雅圧は、くすぶり舞

ける「敷」国内階級闘争の組像剤 になるものは徹底して抑圧し、更 なる民共体制の強化をめごそうと したものなのである。

命的人民と連帯していかねばなら反脳命職圧を粉酔し「蘇」国の家 われわれは、朴政権の徴駆した

を表現に住えた権力は、デ を表現に住えた権力は、デ を表現に住えた権力は、デ 沖繩国会」粉砕の突破口開く

国の司法・馬台と氏ご銭い波くこと」は、難よりもブルジョアシー自身十名を結集し機動墜殲滅 唆を全 点としての渓松空積基地の重要性

りと自信をもって崇告したい。そ

自衛隊派兵国止第一派闘争を震心

中、東海地方に於る深瀬の淡気地 い抜いた。自衞陳沖縄武兵計画の

りとえて、唯一生眠的に

10.16 日比谷野音に2500が結集

のニクソン訪問受諾等々という戦ーや 米替の密経済政策発表によるI 被過蹇阿世界の大栃な再綱の中で 沙賞後し、圧倒的な武装家伝を克 機動尿機機能」への決 超を促す 「沖縄」「中国」「磁性」総の難

な情勢の中でブルジョアジーは、 管理域部 一次決勢における表々が向い、そのよう 一般に得れているのであり、そのよう 一般な語・次決勢における表々が向 甲域語 一次決勢における表々が向 てきまに、生育プララ有経圧組命」は、必ずや「佐養(春養日養フ女」に向けた沖縄の日光共同収託命制」は、必ずや「佐養(春養日養フ女」 りを順復しているのである。そしって、今日の危機的状況の乗り切 りを順復しているのである の批准と関連法案の途行採決 **村は、関内的にも五~六月沖繝逐** 「国会における「沖縄双遷路佐」 Bを前にした佐藤 (帝国主義) 大の金属の任何を担当する。
「こここにおいて、かくと様」
「大の金属の任何を開発する。「こここにおいて、かくと様」
「大の金属の任何を対し、大の金属の単位を対し、大の金属の重要を対し、を受け、対し、大の金属の重要を対し、大の金属の重要を対し、大の金属の重要を対し、大の金属の重要を対して、対し、大の金属の単位を対して、対し、大の金属の単位を対して、対し、大の金属の単位を対して、対し、大の金属の単位を対して、対し、大の金属の単位を対し、 所打倒・国金 批告 間止・機動隊

☆日崎院沖縄深兵から海外派兵を|騰線』の闘いを 賞奏するであろ 解散地・烹ぶ園近くで、 機動 大民に暴騰しなければ! われわれは恋公園にお 10・111 顕条は、1 った全閣隊に対 (四層より)

五月の、 大紙伽楽

がためのその種言議院なのであ

団病せよ!」(十・一蔵町和念日 **唐が順在化しており、それに** 既述の勝利に見られるように の「緊張緩和」を打ち出す野党総国会議で「郷土予備領の廃止」等 ては「国民は反共精神を新た 「緊張緩和」を要求して立ち対決を更に打ち固め つつ あ ※固袴を打ち出し、 朝鮮に対する の朴微能)と、国内での記

※字や「佐藤(帝国主義)政 繋せよく

部領が一条乱れず、権力に対応しる。反行験終ーポヘル復復四百の

結点である清水谷公園まで

として、本1○・1六集会が二千 として、本1○・1六集会が二千 級闘争の衝地平を切り拓かなけれ そのような日本階級腕条の飛繍 の終了の後、↑○・二】闘争の集 カ強い発言に対し、総ての人民力強い発言に対し、総別に行うない。

セレタリア階級線体の利害をかけ 変力阻止闘争へと至る難いに、プ 衝平たる機動隊 殲滅患を 展幅し いて三人の権力の手先を奪った我 た、まざに決戦的圏いとしてある とにより、仮燃的武装闘争 - 力強い発音に対し、総ての 人民 ・ 機械後」への決証を 呼びかける ・ 関志による「1○・111機・動隊 間志の徐塚、七〇年代 機器したい。 集会は沖資委権 第の 段上に立った日本反帝戦線の









「反帝戦等行動隊」、社共を粉砕し 新たな「国際主義と暴力」の罰を獲得した、

住民の下からの右翼的組織化、日帝は労働者支配の強化と地域

- からの権力機携肥大化と機 した支配管題機構の全理化・

なされる。GNP第二位としの一倍の適應に盗った沖艦の県民化「七座人しく迫っているシア人民への犠牲の転嫁として」「左」添としての乗的切りと日「代階級闘争の闘を貼う

代階級闘争の資を担う問題とし

でもし年

翼として更なる支配の強化とア 切闘う厳密を提起しえず、行動 日本ーアジアにとっ

友配の襲主たる蒸盤と機販を失 **危機にあえぐ米帯は、敷後世界**

シナでの敗北と国内危機・ドル の小ブル運動をくり返すにすぎ 2種一アジア人民にとっていかな 極新政党は、ただポスト佐頼の

以務をひめを議会内野党として.

ない。のみならず、体制の左か

「復帰か交流粉砕か」は、マ

□ で変数となっている。 その時にあなる。(日本) で、 との時になる。(日本) で、 この年の日本では、 「日本) で、 この年の日本では、 「日本) で、 日本) で、 日本)

日本帝国主菱国家への沖縄の

との神綱七二年収集を中心軸

日常マスコ 統一行動を維備する中から、数

| 統一行動を推補する中から、数 | 一九七一年一〇| 統一行動を推補する中から、数 | 一九七一年一〇

行動実行委員会

政党は、ただポスト佐頼の一回ら対決しえない中で、今頃会る日帯七〇年代路線に既成 この論理に獲得奪還の国民派が

「運動の形成、こ

れが七二年変遷である。

アジアにむけた反革命的権出の で秋の国会世権を飛行せんとし 「政策機能には多く

制の再編が全社会的に推定され 政府とマスコミは、かかる舞んとする日本帝国主義の国内体 助としてなしている有機である

場面を組織の一体化=条列化運

「七二安**達**と対決しえない日本

会話返

の統合。 等々…… 態化。経済の産頭] 体力の拡大 衛化による幾力製圏の強化を軽

つつある。米無事体制の補充=

26・国民運動派をも包摂しつつ

すべき問題が山積みしている。
現任は重い。国民の努力で解決 E

三鉄慰動達成の大キャンペーン ての復帰派の七二年返還の枠の ※編しえない痛苦な現実をはっ 慇懃的に神趣酸争を担い得る伝は、いまだ沖瀬問題における」 を爆砕せよ。全ての飼う人民のは、いまだ沖瀬問題における」 を爆砕せよ。全ての飼う人民のは、いまだ沖瀬問題における」 を爆砕せよ。全ての飼う人民の 人民の運動は、無意味であり敗 固な共同闘争機関の結成を見す

もって確認しなければならない。しかも我々の信凭的武英國争の途撃は、今夏に預次いだニクソン両所間によって、これまでにない流動を開始した既代巡維担告党の活動向を終 いたその力量を、今後如何なる方向へと発展させねばならないのかを鮮明にすることが決定的に関われていることにおいてこれまで以下に必要な政治集会であることを、まずいたその力量を、今後如何なる方向へと発展させねばならないのかを鮮明にすることが決定的に関われていることにおいてこれまで以下に必要な政治集会であることを、まず てきた我人革命的左翼が、遂に三国塚第三次土地原制取用関止闘争において、機動隊の分摩い概を打ち破り、これを襲滅することによって自らの傾性的武装の衝地派を防り拓 て射星におさめた上で、その具体的内勢が根据されなければならない。その際現代過速期世界の流動は、まがりなりにも「米ソ平和共存」の枠内において、速本的に集約、原服 共産間(戦闘部) 政治場合に結婚した労働者・歴史・学生・市民の皆さんノ本政治場会は、六九年春 1 秋の間いの敗北戸院、天ちく祖共尚苦門を続けることを余機なくされ

「大学者」もは、日本の名では同様であることも担当し、これであるというの間によりないなどの、これわれれたに関する。現場である。 「大学」というなどは同様であることも思うれているという。 「大学」というなど、「日本の名では同様であるというの間に対しているだめ、これが、またして、同様であるのでは、日本の名では同様である。 「大学」というなど、「日本の名では同様である」というというなど、「日本の名では、日

連帶の挨拶とアッピー

在「本土」沖縄人民はこの國

に関いませた。 「は関います。 に関います。 「は関います。 に関います。 「は関います。 に関います。 に関いまな に関いまな に関いまな に関いまな に関いまな に関いまな に関いまな に関いまな に関いまな | 三国塚芝山連合公港反対問題を 間である。農民にとって生活と み出さずにはおかない。こうし 百名、逮捕ぎ十六官名にも及ん

三国塚芳山連合部対同駅より

が、ともあれ八派共闘の優異は、中極美口

的体帯というこの一点につきるところの問題であ

まざに、ボルシェヴィ斗的「気風と訓練」の担義

戦後分子、更に、叛族派にことで

徹底した組織的際いを中央集場機関になしとげきる! 無事機会論と無政府主整的総書間と拠々を鮮明に

しかわれます。「「「他の問題」「開始」参数回に、かって中間性「何とか出版的な参考のでよった。このでは、「「他の情報を参考し、「他のなどのである。」「「他の情報を表現した」」」というでは、「「他の情報を表現した」」というでは、「「他の情報を表現した。」」というでは、「「他の情報を表現した。」」というでは、「「他の情報を表現した。」」というでは、「「他の情報を表現した。」」というでは、「「他の情報を表現した。」」というでは、「「他の情報を表現した。」」というでは、「「他の情報を表現した。」」というでは、「「他の情報を表現した。」」というでは、「「他の情報を表現した。」」というできた。

「他の情報を表現した。」」というでは、「「他の情報を表現した。」」というでは、「「他の情報を表現した。」」というできた。

「他の情報を表現した。」」というでは、「「他の情報を表現した。」」というでは、「「他の情報を表現した。」」というでは、「「他の情報を表現した。」」というでは、「「他の情報を表現した。」」というできた。

「他の情報を表現した。」」というでは、「「他の情報を表現した。」」というできた。

「他の情報を表現した。」」というでは、「「他の情報を表現した。」」というできた。

「他の情報を表現した。」」というでは、「「他の情報を表現した。」」というできた。

「他の情報を表現した。」

「他の情報を表現した。」」というできた。「「他の情報を表現した。」」

「他の情報を表現した。」
「他の情報を表現した。」」というできた。「「他の情報を表現した。」
「他の情報を表現した。」
「他の情報を表現したる。」
「他の情報

局長のアッピール 逆める決獄を申し述べて、あい

の「開発されます」とは、「と思う」とは、とは、これではならない。

おおは「フェンターの関係を持ち、のでは、これに、は、「は、「アーンターの関係を持ち、いた」とは、「アーンターの関係を持ち、いたとうない。 「しょうしゃ しょうしゅう にんじゅう かない はんしん では、そのからなめ、ことを関する必要がある。 これを関するのである。 これをしているのである。 これをしているのでは、 これをしている。 これをし

が成立ら回転されている成立と支援人は関われている成立と支援人は関われているのであるのが、このでは、アンコーの関いません。 1965年1月12日 1月12日 1日 1月12日 1日 1月12日 1月12 だ、勿論、四派の中に、明らかに中核派にイデオロ「同志涿君/兄弟達/

が何ら日本陰級関やの形態の機にならないところか 凝の組織的分割、素克、除茶との置いを六〇年代階 への機略的原理を第二次プントのそれを終拓しつつ 成することができたのである。

こにうなに関こし感はなければならないがなのである。 世界は常統一動薬への流か点体的「切りおかれなが構一家の飼いにおいて生態には関していくととによって 飲食良薬、は彼然的一貫しており、われわれが維備一家の飼いにおいて生態には関していくととによって いたりなに関しているだければならないがなのである。 世界は依然一動薬への流か点体的「切り指摘は薬剤の」

狭解放酵布の「宥和」をもあわよくは設団 するも 過数)も含めて、国際出版り引きによって開辺が命大事に続せること 党は全く熊助権であるところか、国連からの「台湾」のとして打ち出されてきたことに対して、中國共産

で「対象と国家」のかれたり、連続情報の自然してあるがから、「対策制・対象が」に関係の様々で「対象と国家」のかれたり、連続情報の自然してあるがない。「対策制・というた気の必要的主義となっ、万になるうでは気軽しなかなた。連続であるとして表した。本語に「大塚の人だけれたならい。

外には、自己の右翼的本翼を除 るものとして、七二年沖縄への自衛隊派兵の被闘な

For the control of th 刀がない」と贈ぎ度れるのは、騰会内野党か人。しかし、これを総形することは、われわれの。

の開発しています。 は、日本のでは、日本の タンログ である。 がくいかのを形分への影響は、まだにわれわれ、栄養されるである。 がとして、今秋野寺の忠原は、われわれの中に がとして、今秋野寺の忠原は、われわれの中に

らの指摘者の成代的指生の関系を注意して、本来取られてなら地区の単位のもに見れて、A を担いまなした。 では、A を担いまな。 では、A を関する。 とのは、A を関する。 A をしている。 A

小ブル平和主義的反駁器等の枠を突破し、自園帝国ないし、今やそれは接急国人民の闘いとこれまでの 芸製学の新たな連帯の強化の てして、まさにかかる方

・ 発音機構に大いの配行しかできたがある。ではた、株パント小型形式との大型機能のできませんの主要を使用しません。 ・ なわれたので、またでは、大型とであるの、単位は、単立・フェ制機との変をあるとし、整備・工業を対し、大きれた対象が存在し、単位・工業では、多数には、フェント・工業を対していません。 ・ なわれたので、またしたいとなったが、「大力のような一般のこととで、十年で観客とし、目示したの、主流が重要したのとした。 種類をしているという。 一般のは、大型というなど、大型となり、大型となり、大型となりではらいうなど、大型となり、大型となりではられるではないりではられるではなりではられるいうないができがではられるではないりではられるではなりではられるではなりではられるではられるではられるではなりではられるではなりではなりではられるではられるではなり すなわち、帝国主義清明絵をこれらへの政治的・ ることの確認は日本プロレタリアートを合めて、帝 されるのであり、それは彼らのスプスプの一国主義

『際主義の旗 の

プロ

国際主義 にうち固められた

に黄微しつつ、一〇・二一へと荷一共同中核派との党派闘争を圧何的

反帝戦級の際争奏行を行います。 々と遊撃を開始している部馬地区

既にわれわれは、全国的にそのような難いを開始しているのである。 わればならない。こちわけ、中極戦のことを人民医療が深め着めの整体は、まさに、八衆国財」の歴悉自覚のお客のために攻急の任義とされたければならない。但化し始めたのであった。しかしながら、階級数弁が他に前人未締の環境へと誘えてまんとする時、埃力の種に地化し払減損毒の機化は、不可難の試費であるとい何にし 〇年代階級闘争を担うものとしの「蜂超・プロ球」潮流輸出の巨沙を踏み出し、まさにその影響力が拡大。

金融の関窓務署/基金的労働者・農民・学郎・市民のみなさん/九月三里塚第二次土地勢耐収内阻止航券において航空的武装総券の新地平を更に切り拓いた日本

批判に何らイデオロデー的に応え、している点に明含らかでもけれざも)は、われわれの中極波、夕た戦女で「投判」に響き使かされた経験をもっているのだ。られず、以下のようなヒラ

命の第二の道は、必ずやわれわれ

よ!) また、無内容な『批判』さ 末期的症状を呈しているのである

がをまき散らすといった。まざい われわれが「中核派コンプレッ

狭山差別裁判11月公初に向け

ニクソン声明以降の経済的な食 とらむ政将=ブルショワシーは、 からなる巡送差別の温度、助長を さらなる巡送差別の温度、助長を

「百万人署名」

活動

を!

政策を満じなかった政府は、いきの復興において、何んら根本的な

はかっている。戦後の、認落産業

気分屋左翼として

欺瞞的「左傾」化の犯罪性

「八派共闘」解体の無総括と

「八派」に結集した際うプロレタ 際数という問題である。とれてそ たところのイデオロギー的根拠の まさに 『八派』 の解体へと至っ

中核派との党派闘争の 経過と

の実践的決質によって、六〇年代、自らハミでていった。 寒にイデオロギー的に傾覆しける第二次ブントの「気の茶命」 れわれにとっては放送され、また、ぞれへの単純圧弱から、毛皮の柔神機動等は、四・二八にお の結集制=「八残武費」から、わ 贈」の※南に終止符をうち、 」との関連。でを確認してかねば、程で、それに敗北していった部分との覚練関手の経過を「党の其命」のだが、かかる「党の其命」の選手を対している。「党の其命」の選手を関いて、この間の中解談、ことをめぐる組織的関いであった

のおいいったのであった。下は、17年2月1日本市でもシントのの「後年」原発の企業で入れが、のおいていた。ためであった。下は、17年2月1日本市でものであった。下は、17年2日日本市では、17年2日本・17年2日本市では、17年2日本・17年2日本市では、17年2日本・17年2日本・17年2日本・17年2日本・17年2日本・17年2日本・17年2日本・17年2日本・1 再轉を促進するものとしてかちと て中枢域と両を並べるアントの分 代争」後を解体に掲すべく、わが勝かにおける金銭的位置の決定的 しかし、それは「八後」にあっ 皮特熱健同へと転落した「縁郎・ 形骸化への喰へと焼き当っ 一方、中核派は(二次)プントし、即鹿に「八派共襲」の客 にほかならなかったのである。ての敗北によってその展界を の期始は、「八派」の分解の端橋

様 ア既呑を1べんに色懸せかものに し、蜂廻・プロ独奏とそが七〇年 の であること全層板敷縁に用きらか こ にしたのである。

無防備の同志に反革命テロを加えた

中核派を群大より放逐す

大佐 主義 青年 同盟全国系 日本 いからは終め後の 「本のである」というである。 これからは終め後の 「本のである」というである。 または、アンドは、1725年 日本 のがあるとの表現を持ちている。 である。または、アンドは、1725年 日本 である。または、アンドは、1725年 日本 のがあるとの表現を持ちている。 である。または、アンドは、1725年 日本 のがあるとの表現を持ち、たって、 では、1725年 日本 のがあるとの表現を持ち、たって、 では、1725年 日本 のがあるとの表現を持ち、たって、 では、 1725年 日本 のがあるとの表現を持ち、たって、 1725年 日本 のがあるとの表現を持ち、 1725年 日本 のがあるとの表現を表現して、 1725年 日本 のがあるとの表現を表現して、 1725年 日本 のがあるとの表現を表現していました。 1725年 日本 のがあるとの表現を表現していました。 1725年 日本 のがあるとの表現を表現していました。 1725年 日本 のがあるとの表現を表現していました。 1725年 日本 のがあるとの表現を表現し、 1725年 日本 のがあるとの表現を表現し、 1725年 日本 のがあるとの表現を表現し、 1725年 日本 のがあるとの表現を表現していました。 1725年 日本 のがあるとのました。 1725年 日本 のがあるとの表現を表現していました。 1725年 日本 のがあるとの表現を表現していました。 1725年 日本 のがあるとの表現を表現していました。 1725年 日本 のがあるとの表現を表現していました。 1725年 日本 のがあるとの表現を表現していましたました。 1725年 日本 のがあるとの表現を表現していました。 1725年 日本 のがあるとの表現を表現していました。 1725年 日本 のがあるとの表現を表現していました。 1725年 日本 のがあるとのました。 1725年 日本 のがあるとのまました。 1725年 日本 のがあるとのまました。 1725年 日本 のがある のがある 1725年 日本 のがある 172

| 巻を必ずや質数するだろう。「ブー治過程と主体の危機の中で変異批一った。 あ」(メ)などと被害妄想病に落」本階級競争の明暗を赤するものと ントは東京からR・Gをよんでい。 池等力間止「一〇・二一腕争は目 撃敗を艦数しつつ、我々は一〇・ 退はあろうとも「BUND網は附

一我々が伊達に「悪義の如き第三 であろう、1○・二一勝号に全力削進しでいくであろう。 にある」以上脈史的転換点となる

一機動隊機械般に向けて大胆に

を一蹶だにせず延命しうる時代は、する羽目にいたった。そしてり、そのような階級闘争の厳しさ、『防衙』で遂に政治場会さえ

そろそろ終らせ なければ ならな

と体と見は

一頭の体裁さえ失い始めたの それぞれ勝手に動き出

中部地区学館解放にたつ

的被導を恐れる影響力・学校当局 | 中に全都結集わずか一五名程度でているにもかかわらず没々の圧倒 | し得ない事を唯一の根拠にこの闘 和果・生田両地区学館が解放され、横況滅が、自らが中央闘争に参加

る。我々の 追求の 前に彼らは一

を養き、火炎ビンで火を飲ち种用つくし、同時に路上にパリケート 集会後、明大通りを圧倒的なず られたのである。 ったえ圧倒的な拍手と共感で迎え二一機動球 殲滅戦への結果をう 選争以外にない事を機即し10・

レーションのうずで埋め

って学校当局は裁々の闘いを圧殺 祭署からの「要譲」と機動勝乏も こわしてきたが、その度に神田警

りで、自己の醜いすがたを今 ただ「参加させてくれ」の一

てきた。我々はこの学問ロック

視し、無会を賞徴したのである。 の前に暴露したのである。我々は

> 1〇・二一選挙に圧領的に決起す 我々はこの関いの成果を踏ます全国の同版終君! 一樹を解放区と化して騰い扱い

欧藤拳を展開し、狭門へイをうち

争を見るまでもなく必然なのであ、敵線の登場によっ て不関不休のけの皮がはがされるのは三国塚闘 っかりおじけづき、関西地区反帝

かけ」以外の何ものでもないのである。

われわれがこれまで相手にして

本版列をもって空間内集会を開始。をもった地区芸術郵源に編集文化 を開発する。 ・ 本語のでは、近年では、 ・ 本語のでは、 ・ 本語のでは、

一らなる解放運動の強化に、闘争の一か! 巡落青年の目らの闘いに学び、さばを行なっている、我々は、この

②を行なっている、我々は、この 川青年即時釈放、池落完全解放のOO万人場名」早期達成の街頭情 判1一月公判闘争勝利、無寒の石

戦列を うちかためよう ではない

|解放詞題の署名活動に画僧し、 | | 資年友の会」が中心となって、 | | 義政府打倒の革命的闘いと呼応

現地関東においては「関東部落一

支配と分裂策動を発化する帝国。

我々は、このような帝国主義の

○月を「解放月間」と認定し「一

|ガ人署名||を中心とした巡路青年||って総路座業の抹稜=部路解消を

[100 tass

皮革一品目の目出化に

頭にたって探山戯判を打ち砕くこ

とが決騰されている。

青年集会」においても、「100本年の「総務解放第一五回全国

の戦士越君!敦国行動委の兄弟越一闘う会での兄弟迷と共に、実力解の戦士越君!敦国行動委の兄弟越一五大学共闘に趙榮する中部地区の

んとしている。 10・二一の原前

で急激に進行するインフレ等の社ワイロ・汚職の全面化と、又一方

会不満の深化と蓄積が、その背景

警察・一般企業体に及ぶ公然たる

会前へのずわりこみ、機動隊と五日の無談乱入事件に対し、

郷一の一〇・八、として勝われ アウトこそ六九年の敗北の神田地

結集、実力闘争の方針提起、 環粉弾ー減兵間止」の旗の

祝の全湖大への全**国化**。そし

2治収・不正腐敗の温飲

夏に各地区から10・111

四数銀剛祭の機能が注され他認し

朴政権の強権的反共策動と

押し進めることを船団に煮志統一 対を粉砕し断固として短網開争を

撤転的弾圧に乗り出したのであ 朴政権は、このまま放置するなら等の反政府的色彩を強める中で、 王国の「世事教練反対」から 知味りと、 雑山の東亜・水産大 の辞任」の決機等と、抗騰運動を要べ、「思入将兵の処罰・国防

して第六回全国報網を終った。

この間属共同中枢派はデッチ

叛軍經結成大会報告〉

を増え鮮明にし、しかも、翌日我

の曖昧を出勤させ、八二六名(東ウル・延世・成均額大等へ一万人

生は抗機の関いを組織し、野党衛 団選学・教授ポイコット」と、学 し「新皮令の即時 撤廃決議・集

弾圧を試行しつつある。 これに対旺屯・自治会の解散等と矢次早に 際はまだ多い)の不当逮捕・学内

民党は、内相不信任決議を行な

「極」米気の削減・ニクソンドクトリンによっ

、対外的には「緊慢緩和」

・ ことの作のとは、大学の場合と、10・11地域の、保険信任とは北大株会のかり、はならないと、10・11地域の 保険信任とは大株会のかり、はならないと、10・11地域の 保険信任とは大株会のかり、はならないと、10・11地域の にった 1・1地域の にった 1 更なる批准阻止へ進撃開始さる

出発した。 | 沖縄派長国比の関いを開始した。 | 沖縄派長国比の関いを開始した。 | 沖縄派長国比の関いを開始した。 滅戦として突撃し抜く中から湘南更に一〇・二一闘争を 機動隊養 行動委、福大AM共翻版網部を選 这數銀行動委、福岡站区沖繩飯銀 その後、代表頻繁として福岡地

共同アピールとして綺感一致で探 出し、擬後に大会宣言と小四に対 する自己批判要求(前号念組)を

と共に第六国企園牧城の産命的成 る部分に武装敵対する彼等を残々

にピラまきを開始した。我々の数 士・た 一七) ら こうした事態の中で、十・一七) ら 恵った。正午、大和原前に結集し 出 あった。正午、大和原前に結集し 出 にどうまきを開始した。我々の数 士・た 一七) ら 七陈と同数の私限を動員し、 注目されねばならない事は、デ出るした。 機動

これを粉砕し、髪後まで吸磨的デ とれを粉砕し、髪後まで吸磨的デ

を最先頭で担うことを約束する。 は 反対派・薬共同中枢数の 矮少な

「関係のうち性問題」だ、自豪は、さり、あっという何じぞれもまき を問題れたが異常が、こまれた、「大和をよっちを発 が問題れているが、というだいとれた。「大和をよっちを発 を問題れたが思想されて、実際 4日 周の重素を売しているのである。 しているのである。 「古・春間を乾燥し来源大べ水源か」 しているのである。

全国の開志誘君!

ようではないか。な んとし てもをもって今秋-来客願争へ進撃し

ムを襲ってくるというまさに権力 の陰に離れた行為をやってのけた 放に榜類人に危険を感じ地裁部隊一般的起因として爆発した「舞」国 日「韓」闘争以来六年ぶり 由諸説可・決裁の際の「急行将 「非純性国家」に限り、貿易取引として、昨年末の東欧諸国などの

選改巻宏沢・判事の大量群任巻の 仁川の比較事件・ソウルの広州団

17 木基地解体闘無闘わる 先進 的 大和 市 民と固め く連

務は、彼らが言うように九月街遇

全国敷垣闘争における中核派の我

ではなく、我が群大AIFが、中|連日武装宣伝を×××名の密線で展|治務療、自衝験療務隊と「全世界

の反補命的行為に答え、群大内室一戦い波いている寛宗た血湖を共有

する兄弟遊!

業的ゲバルトの質徴を突破日よし ショアジーそしてその走鉤たる政の形大数箋、些芸様内における大 繋いかからんとする帝国主箋ブル に勝利的に腰限している。劉八日 々、僧無と恐怖をむき出しにして腳始し、中根影殲滅の難いを完全 一帯響解休ノ」を会言葉に日夜倫

人民勲級派の如く一国主要、民族 主義へ転落し帝国主要に包摂され 関係主要と終略的個種の方向を見

10

る四分がいまだ階級関係において

神奈川

に粉砕しきったのである。 電面から突撃し、 突膚 なきまで の

からようやくかき集めてきた中核

反落命を再編し、強化すべく沖縄

の主導的位置に鮮明に押し上げ、「学生・戦を購読者終君ノ一〇・一級停!派兵阻止」瀕邪を無命主体 【神奈川支屬】 全国の労働者・

「返還」政策を七〇年代初頭、そ

らできない重態であり、三ケ月以一在でも酸素吸入器なしには呼吸す

中極腰の無動は、決して許されざ

作、兵士をして船艇戦誘奏経済!

が、長士をして中部報酬を終着! 「難の下「木土」――沖獺を育くプ」と修理、プロ埠瀬徳形成を売ち取「まさしく滞難にするアルジョア政会協の共済的特徴者、群民、李一供プロ地へ同じ、世界局所革命の一格的難力闘争を維持するものとし」とつていくのでなければならなす。

て蜂郎、プロ独湖流形成を売ち取一まさしく流動化するブルジョア政一

一帯無無休!」を含言葉に日夜塘

とりわけ 全国各地で縁起へ 向け

口空存樹立、沖縄の日に

当然にも、扱みは鹿ちに丘解を

肋骨が肺に喰い込み、同志では無

す への武装敵対で押し、そうとする とした腕いを駆持し続けてきたの とした腕いを駆持し続けてきたの

10

曲 核派 K 叛

Ø

武

装敵対を

許さず!

の結署といもに前柄において時間

に比して、我がATFは板原

六

回

全

軍会議売ち取

る

製焼助-八・一一振会被製、九・

上げ、九・ 教報行 助委 ば、午前 一一時被褒、九・ 一三日各 趣 方から結集した

は、横共府中核派による八・一一

一三日初週で選供することを決定 のとして第六何全国報照を

層た同志学に助例三木、中担優八 っていた我々に対して、

状況になってしまったのである。

|装した中 | 群馬段階においても戦 何 を血 | 彼ら中核域は、当然の

本の優折と頭ボ製偶を負わせ

上の入院生活の療守を医師から滲